

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 長坂 暢

論 文 題 目

Minute perivascular epithelioid cell (PEC) nests in the abdominal lymph nodes — a putative precursor of PEComa

(腹部リンパ節における微小血管周囲類上皮細胞巣 — 血管周囲類上皮細胞腫瘍(PEComa)の前駆病変と推測される病変)

論文審査担当者

主 査


委員

名古屋大学教授

中村 孝男 


委員

名古屋大学教授

高橋 雅英 

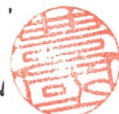
委員

名古屋大学教授

志川 史隆 

指導教授

名古屋大学教授

豊國 伸哉 

論文審査の結果の要旨

血管周囲類上皮細胞腫瘍(perivascular epithelioid cell neoplasm, PEComa)は、近年明らかにされた腫瘍で、その細胞起源や前駆病変については明らかとなっていない。今回の研究では、PEComaの前駆病変の可能性のある径0.8mm~10mmの微小血管周囲類上皮細胞巣(minute PEC nest)についてその頻度、解剖学的分布、組織学的特徴について検討した。婦人科悪性腫瘍に対して骨盤内のリンパ節廓清が行われた1,656症例において、21例(1.3%)にminute PEC nestが認められた。骨盤内の分布では、大動脈周囲および骨盤内高位のリンパ節に多く発生する傾向があり、この分布はPEComaの分布と類似しているため、minute PEC nestがPEComaの前駆病変である可能性が示唆された。免疫組織学的にもPEComaと共通した形質を示した。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. PEComaの疫学調査は乏しく、LAMでは0.09人/10万人との報告があるが、その他のPEComaではさらに稀である。minute PEC nestは1.3% (1300人/10万人)であり、それと比較し頻度が高い。前駆病変は腫瘍よりも頻度が高いのが一般的で、その観点からも前駆病変として矛盾はしないものと考えられる。
2. 本施設では根治的子宮摘出術の際には基本的に全例でリンパ節の系統的廓清が行われているため、今回の研究の対象としたリンパ節は女性の骨盤内リンパ節の状態をよく反映していると考えられる。
3. 発生部位は、大動脈周囲や骨盤内高位のリンパ節の割合が高く、この分布はPEComaの分布と類似しているため、minute PEC nestがPEComaの前駆病変である可能性が示唆される。組織学および免疫組織化学的特徴も一致しており、PEComaの発生母地であることが示唆される。
4. PEComaの前駆病変の同定は、腫瘍発生の解明につながり、難治として知られるLAMなどPEComaの病態解明や治療法の開発に大きく寄与すると考えられる。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	長坂 暢	
試験担当者	主査		中野 勲	高橋 雅英	吉川 史隆
	指導教授		豊岡 伸哉		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. PEComaの文献的な頻度と比較した minute PEC nest の頻度について
2. 本研究の対象群での minute PEC nest の頻度を一般化することについて
3. PEComaの前駆病変の可能性について
4. PEComaの病態解明における本研究の意義について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、生体反応病理学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。